クラシック音楽の
正しい鑑賞法
■12■

「旅立ち」をテーマにした2曲

ピアニスト・北海道教育大学岩見沢校准教授
深井　尚子

3月は、旅立ちの季節、また、春に向かって心がうきうきする時期ですね。

しかし、考えてみますとクラシック音楽の中で、旅立ちをテーマにした曲は、それほど多くはありません。その中から、今月は2つの曲を紹介したいと思います。1曲目は、音楽の父と言われるヨハン・セバスティアン・バッハが作曲した、「最愛の兄の旅立ちに寄せて」と題されたチェンバロ、または、ピアノで演奏されるカプリッチオです。

以前に、フランツ・リストが標題音楽を創作したとお話したことがありますが、実は、17世紀バロック時代にも、バッハは、最愛の兄のために表題をつけた作品を残しています。この曲は、まだ、19歳の若きバッハが、オーボエ奏者の兄が、スエーデン王の音楽隊に赴任するための旅立ちに捧げたものです。全6曲から構成されており、すべての曲に題名がつけられています。その中の3曲目までが、遠くに行ってしまう最愛の兄を思いとどまらせ、ずっと一緒に居たい気持ちを表現しています。しかし、兄の思いは強く、旅立ちは決定的になり、郵便馬車の高らかなファンファーレで送るという物語になった曲です。

このバッハのカプリッチオは、ほとんど演奏会の場で取り上げられることはなく、一般的には知られていませんが、音楽の父といわれ、すべての作曲家たちに絶大な影響を与えた偉大なバッハの若き日の純粋で直接的な表現が魅力的です。バッハの作品は、対位法の難解な音楽と見られがちですが、実は、とても自由な作曲法と豊富なイマジネーションで、私たちの心に深く届く素敵な曲をたくさん書いています。

さて、もう1曲の旅立ちを題材にした曲は、ベートーヴェンのピアノソナタ作品81ａ「告別」です。ベートーヴェンは、標題音楽をほとんど書きませんでしたし、その対極である絶対音楽の作曲家と言われています。しかし、32曲のピアノソナタの中で、2曲だけ、ベートーヴェン自身が題名をつけた曲があります。その一つがこの「告別」です。この曲の冒頭に、ドイツ語で、Ｌｅｂｅ　Ｗｏｈｌ（さようなら）と書いています。特にこのドイツ語は、再会を意味する、Ａｕｆ　Ｗｉｅｄｅｒｓｅｈｅｎとは異なり、もう会えないかもしれない別れのときに使う言葉です。

この曲は、１８０９年から１８１０年に、オーストリアのルドルフ大公が、チェコに疎開するときの別れの際に書かれた曲です。フランス革命の共和制の思想は、じわじわとパリから遠いウィーンにも押し寄せてきていました。そのため、この時期は、ハプスブルク帝国もその危機感から王族、貴族がチェコに一時身を寄せていたのです。ルドルフ大公は、ベートーヴェンの唯一の作曲の弟子で、生涯、ベートーヴェンを支援した人です。高い身分にありながらベートーヴェンとは、友人のような親しい関係にありました。「告別」は、そのルドルフ大公が、ウィーンを離れる時のベートーヴェンの悲しみを言葉でも表した、珍しい曲と言えるでしょう。

3つの楽章から構成されていて、第1楽章には、さようなら、第2楽章には、不在、そして、第3楽章には、再会とすべて文字で書かれています。ベートーヴェンにとって大事な人が遠くへ行ってしまう淋しさがダイレクトに伝わる曲になっています。ヨーロッパでも、大事な人を送る気持ちは同じであることがわかりますね。

陽彩随筆

ああ、交響詩岩見沢

堀　利幸

♪　雪が降る降る　雪が積もる積もる…

三月三日、僕は三十三人の仲間と「交響詩岩見沢」最終章を合唱した。「交響詩岩見沢の会」が「空知しんきん文化賞」を受賞した式典での演奏だった。

この曲は詩人加藤愛夫先生が昭和四十八年に岩見沢市開基九十年を祝って作詩し、北大の川越守先生が作曲したふるさとの壮大な讃歌である。

翌年の披露演奏会では、中学生や高校生も加わって三百三十余人での大合唱となった。詩人の伊東廉先生は「演奏が終わると一瞬陶酔の真空は崩れ、怒涛の拍手の嵐に感激のるつぼになった」と「文学岩見沢第十号に書いている。

レコードも作られた。毎年の「市民の文化祭」で歌われ、交響詩岩見沢の碑も建てられた。茶道などのいくつもの全道大会でも合唱して感動を呼んだ。

岩見沢市開基百年など大きな節目の式典やキタオンでも謳われてきた。卒業式などで今も歌っている学校もある。毎年の「合唱の集い」で四十余年にわたって合唱されてきたことが今回の受賞につながった。

贈呈式では空知しんきん産業文化振興基金の熊尾憲明理事長から賞を受けた相澤清会長が、この曲が出来た当時のエピソードを語って挨拶した。当時から事務局の一員として関わってきた僕は体中が震え、一瞬の間にいくつもの思いが蘇えってくる。合唱指導や碑の建立、催しに関わった人たちの顔が次々と頭の中を通過していく。

昭和五十三年に私たち「文学岩見沢の会」が空知教育実践表彰をいただいたが、受賞決定したのは会の代表加藤愛夫先生の葬儀の日だった。その表彰式では交響詩岩見沢がＢＧＭで流れた。

相澤会長のあいさつと頭に巡ってくる思いが重なり合う。

交響詩岩見沢は歌っている人たちにとって誇りである。「あのとき歌った」「あのとき聞いた」と思い出が残る人たちの心のふるさとなのだ。晴れの舞台で僕は、最後のフレーズ、

♪　幸ある未来に向かって大合唱し行進を続けよう

と歌い終え、満ち足りたひとときを送ったのだった。

市民随想

禁煙と受動喫煙

岩見沢　奥村　正文

日本ではすでに公共の建物、電車などの乗り物、病院などでは禁煙となっているが、受動喫煙に関して日本は世界に遅れているといわれている。

この度3年後の東京オリンピックに向けて厚労省は受動喫煙防止を強化する方針を固めた。厚労省案によれば家族連れや訪日客を考慮して食堂や居酒屋など人の集まるところを原則として禁煙にするという。

ところで私が初めてタバコを手にしたのは昭和26年、18歳のときだった。今ではタバコが健康に悪いのは周知のことだがそのころは問題にもされず、高校を卒業すると世間では許されていたように思う。

中学生になるとすぐに終戦となり軍事教練や4列縦隊の集団登校などなくなったが、むしろ映画館、食堂、公園などへの出入りは強く禁じられ、身なりにもうるさくなった。帽子を潰したりズボンの裾を広げたり頭髪を5分刈りに伸ばしても激しく叱られた。特にタバコにはうるさく、先生が一人一人のポケットを裏返しさせタバコのかすまで調べていた。見つかると往復ビンタが飛んできた。それでも隠れて吸うものがいた。反抗し背伸びしたかったのだろう。それで高校を卒業すると大半がタバコを吸うようになった気がする。

私が高校を卒業し大学の寮に入ると同室5人のなかに先輩の佐渡出身のNさんがいた。彼は長髪に髭を伸ばし見るからに蛮からな旧制の予科生を彷彿とさせ、いつもベッドの布団の上で本を読んでいるか寝ていた。風格もあり彼の行動に興味を抱くようになった。彼はよく遠くに視線を向けキセルでタバコをうまそうに吸っていた。夏の暑い日だった。吸ってみるかと私の前にキセルと刻みタバコを差し出した。一瞬躊躇したが受け取ると刻みタバコに火をつけた。咽てせき込みしばらくすると気分が悪くなった。これがタバコを吸った最初だった。

それから25年吸って止めたのは43歳のときだった。突然胸に痛みを覚え、X線写真を撮ったところ右肺に3センチの円形の陰影を認めた。内科の医師は肺梗塞だろうといってすぐに北大病院を紹介してくれた。私は勝手に肺癌を疑い眠れない重苦しい夜を過ごした。そして相当な覚悟で翌日入院した。

入院して間もなく幸いにも陰影は消え、勧めもあってそれからは禁煙した。禁煙した当初は我慢するのが苦しく、食後にはとくに吸いたくなったが、それも日が経つにつれてなくなっていった。しかし今でも食堂などでタバコの臭いがすると生理的な嫌悪感でそこから逃げ出したくなる。私だけでなく禁煙した人の多くがそうだという。ホテルで全室禁煙にしたら営業成績が良くなったという話も聞く。

タバコは吸う人もその煙を吸わされる人も命を縮め、肺癌、肺気腫、心筋梗塞などの原因ともいわれている。タバコをまだ吸っていないこれからの人は決してタバコを手にしないでほしい。因みに私は15年も肺気腫で悩まされている。

それにしても昨年美唄市で受動喫煙防止法を制定した先見の明には敬服する。

◆　◆　◆

郷土文芸

岩見沢柳の芽川柳会

カーテン開ける　今日も生きています　高松　時子

高齢のドライバー事故にわが身置く　阿部　弘子

子を宿し腹帯嬉し米をとぐ　大畠　嘉世子

迷ってる今日は聖書で明日は経　畠山　糸蜻蛉

ノーギャラです笑顔でつくすボランティア　内山　よしお

まだともう霞追いかけ八十路道　小倉　文子

衝動買いし献立をたてなおす　堀井　美智枝

遺言の約束守り寄付もする　平瀬　春吉

里の客もてなす母の国訛　浜中　道子

平凡な私吊す　無傷な空　岡　嘉彦

中空知の郷土文芸

新十津川いろは短歌会

八年目の祥月命日束の間と思えど亡き人想いて耐えぬ　田岡トヨ子

我がうちの小暗き海に浮かびいる亡夫と亡母と猫のおもかげ　佐竹　知子

弾けだす畑のキャベツをためらわず先ず十個漬ける高値と聞けばわず　小林　悦子

雪中の採り残された大根は緑葉広げひときわ目立つ　河原美智子

老いに厳しい冬となりたり転ばぬよう体も気持ちも引締めながら　田中　幸恵

とうきびの後に育てた小松菜を冷凍にして朝ごと食べる　田中しづ子

しわのばし洗濯物を部屋にほす暖房ぬくく雪空寒し　野畑満智子

一年の早き歳月顧みる喜怒哀楽の交交ありて　中井　富好

霜月の下草枯れぬ落葉松の防風林はあっけらかんと　永嶋ふさえ

灯りつけ朝飼しをれば庭先に二十羽余りのいつもの雀　柳町　紀明

本ベスト10

喜久屋書店岩見沢店（3／13～3／20）

単行本

①	騎士団長殺し１ 顕れるイデア編	村上春樹（新潮社）
②	こころの匙加減	高橋幸枝（飛鳥新社）
③	騎士団長殺し２ 遷ろうメタファー編	村上春樹（新潮社）
④	通も知らない驚きのネタ！鉄道の雑学大全	櫻田純監修（青春出版社）
⑤	おしりたんてい かいとうＶＳたんてい トロル	（ポプラ社）
⑥	お金の増やし方を教えてください！	山崎元（文響社）
⑦	さよならの力	伊集院静（講談社）
⑧	夫のちんぽが入らない	こだま（扶桑社）
⑨	この嘘がばれないうちに	川口俊和（サンマーク出版）
⑩	自分でできる！筋膜リリースパーフェクトガイド	竹井仁（自由国民社）

文庫では佐伯泰英さんの3作品がベスト入り

文庫本

①	旅立ちぬ 吉原裏同心抄	佐伯泰英（光文社）
②	連環の罠 町奉行内与力奮闘記４	上田秀人（幻冬舎）
③	リバース	湊かなえ（講談社）
④	危急 辻番奮闘記	上田秀人（集英社）
⑤	潜る女 アナザーフェイス８	堂場瞬一（文藝春秋）
⑥	薫風鯉幟 酔いどれ小籐次 決定版１０	佐伯泰英（文藝春秋）
⑦	完本 密命２１ 相剋 陸奥巴波	佐伯泰英（祥伝社）
⑧	京の縁結び 縁見屋の娘	三好昌子（宝島社）
⑨	ライアー	大沢在昌（新潮社）
⑩	眠れないほどおもしろい哲学の本	富増章成（三笠書房）

記事・写真を「永遠」に！

【見本】フレーム付・写真はカラー

ご家庭、会社内の掲示、
お店のＰＲ用に。
または親戚や友人への
「贈り物」にどうぞ。

4切サイズ（35.5×30.5cm）3,000円

●プレス空知に掲載された記事と写真を額にお入れします。
●ご注文には、掲載日と掲載面をお知らせ下さい。
●ご注文から仕上がりまで7日～10日ほどお時間をいただきます。
●仕上がり次第ご連絡を致しますので、受取に来ていただきます。
●記事量や写真のサイズによって、掲載されたレイアウトと異なる場合がございます。ご了承ください。

プレス空知フォトサービス

プレス空知に掲載された写真をお分け致します。
受付時間／午前9:00～午後5:00（土曜正午まで）

【価格表】
■Ｌ　判　8.9cm×12.7cm…200円
■キャビネ　13.0cm×18.0cm…400円
■6ツ切り　20.3cm×25.4cm…1,700円
■4ツ切り　25.4cm×30.5cm…2,300円
［すべてカラー・税込価格］

※写真サイズの比率により、仕上がりが上記サイズと異なる場合があります

《ご本人様が被写体の場合、1枚目のみ 100円引きさせて頂きます。》
※但し、キャビネサイズ以上のご注文に限ります

●ご注文には、掲載日と掲載面をお知らせ下さい。
●ご注文から仕上がりまで7～10日ほどお時間をいただきます。
●仕上がり次第ご連絡致しますので、受取に来ていただきます。
●掲載写真は紙面に合わせて加工しているため、実際の仕上がりと異なる場合がございます。
●著作権や肖像権の問題から提供できない写真もございます。
●他の印刷物等への転載はご遠慮下さい。

お問い合わせ お申し込みは… プレス空知岩見沢支社　岩見沢市9条東1丁目　☎(0126)22-3700